

第1回評議員会・会長会議開催

6/13(火)飯一小どろんこクラブにて2017年度最初の評議員会が行われました。新任・継続の評議員の皆さんが顔合わせをしました。今年度飯指会会長の挨拶、各学童クラブからの保育状況の報告を受け、早速会議に入りました。会議の内容については、評議員の皆さんから各学童クラブへ報告されますので、保護者会をお待ちください。

「評議員」とは？

評議員会での審議事項について、議決権を持っている「各学童クラブの代表者」です。評議員会で報告された事項を各学童クラブに持ち帰る「伝達」の役割も担っています。各学童クラブから2名選出されます。クラブによって保護者会会長や副会長が兼務するところもあります。評議員会は、クラブの会の「資産及び予算に関する重要事項の決定機関」です。理事会から提案された事項について、審議し決定をします。その場で決められないようなことについては、各学童クラブに持ち帰り、話し合いを経て再度評議員会で審議・決定をすることもあります。

委託金「支援員加算(3人)」「民営運営費加算」がついていない？

6/12付の事務局ニュースでお知らせしました委託金の明細で、「支援員加算(3人)」「民営運営費加算」がゼロの学童がありました。他のクラブはみんなあるのに、なぜ？と思われた方もいらっしゃると思います。この2つの加算金は、児童の数が関係しているのです。

支援員加算(3人)・・・構成する児童の数が20～70人の放課後児童クラブ、支援員等の配置3人以上

民営運営費加算・・・支援員等配置数2人以上、児童の数が10人以上70人以下(20人を除く)の放課後児童クラブ

利用希望日数を基に算出された児童数の年間平均人数で70名を超えるクラブは、この2つの加算がつきません。



春の基礎講座、開催

6/9(金)、入間市産業文化センターにて第32回埼玉県学童保育指導員基礎講座が開催されました。

講師は原市場かたくりクラブ指導員の河野伸枝さんです。「学童保育(放課後児童クラブ)は働く親と子どもの安全・安心の居場所～指導員の仕事で大切にしたいことを考える～」というテーマで2時間の講義に、各学童クラブから指導員が正規・パート問わず参加しました。学童クラブで配られるお便りから、子どもたちの何気ない一コマにちりばめられたハッとさせられるような言葉、子どもを守るということは保護者を守ることでもあるという想い、一人一人が大事にされているということ・・・そこに込められたたくさんの想いがあふれてくるようでした。

また、学童保育指導員を職業として選んだ私たちにとって、学びの機会に対して行きたい人が行けばいいという姿勢ではいけない、自己研鑽は指導員の責務であるというお話には身が引き締まる思いでした。

このような研修に参加できる機会をいただき、本当にありがとうございました！

現在、双柳と飯一小が大規模解消のため、分割に向けて活動しています。なぜ分割が必要なのでしょう。

7月号の特集記事は、すべて指導員からの寄稿です。学童での日常がそれぞれ綴られています。そこで目に付くのが、大規模になることで、子ども同士のかかわりに支障が出てくること、人数に対して生活のスペースが狭いため事故が起きること、指導員の目が届きにくくなることです。

「分割前の子どもたちの様子を思い返すと、人数が増えていくのにもなって、好きな子とだけ遊ぶ姿が多くなりました。一年が過ぎても、全員の名前をおぼえていない子が増えていきました。」(P.20)

(健が座っていた壮介につまずいて、健がケガをしてしまったとき)『「壮介のこと、見えなかった?」と尋ねられた海斗は真っ青な顔で、『誰がどこでなにしてるか、わかるわけないよ』とつぶやき、健は壮介が同級生・圭介の弟だということも知りませんでした。』(P.30)

人数が多ければ、気の合わない子とあえてかかわらず距離を置き、気の合う子とだけつきあうこともできます。しかし、気の合わない子と折り合いを付けていく貴重な機会は失われてしまうかもしれません。子どもだけではうまくいかなくても、指導員が間に入ってお互いの気持ちのすれ違いを気づかせてくれる・・・そんな丁寧なかかわりは、あまりにも多い人数の中では難しくなってしまう。

指導員も目の前の子どもたちを守るために奮闘しています。『「なんとか工夫と気力で乗りきらなければ」とおもっていたのです。『あんな学童保育に通うのはかわいそう』と言われないような学童保育にすることが自分たちの仕事だ、と頑なに信じていました。でも、もう限界です』(P.31)

人数が多いのが問題なら、きちんと目の届く位の規模にすればいいのでは?という考えもあると思います。財政上、施設確保の困難を理由に、6年生までの受け入れを制限している地域もまだあります。しかし、私が心を打たれたのは、児童数が100名近くになって、「待機児童を出すか、抽選にするか」の選択に直面した学童での話。「何度も保護者会で話し合いを重ねた結果、『学童保育に入れなかったら仕事をやめなければならない。待機児童を出すのも、抽選もとんでもない。働く者同士の思いは同じ』と、分割することを決意しました。」(P.13)

分割には多大な労力と資金が必要になります。将来の見通しも考えなくてはなりません。少子化が進むご時世で、「分割したら今度は小規模になって運営がうまくいかなかったらどうしよう・・・」ということもあるでしょう。2010年4月に分割した加治げやき・さくらクラブと、飯一小どろんこ・あおぞらクラブも、分割後の人数の減少を危惧していたと聞いています。しかし、現在どのクラブも50名を超えています。子どもの人数は減っていても、働く家庭は増えているのです。働く家庭がある限り、学童は必要とされているのだと思うのです。

皆さんはどうでしょうか。今回の特集を読んでみて、自分の学童はどうなんだろう・・・そんなふうに考える機会になりましたら幸いです。

【次号予告】8月号は・・・

【特集】

考えよう!

子どもたちの生活の場

——よりよい施設と環境を

パート指導員募集中です!

時給 900円～ 15:00～18:00

※週3日程度から応相談

(学校休校日 7:30～19:00 の間で4H程度)



もうひとつオススメ☆

松崎運之助さんの連続エッセー P.52,53

「心の散歩道」

思わずホロリとしてしまうエッセーです。
皆さんにも、思い当たる出来事があるかも
しれません・・・

